

抄 録

特發性夜盲ノ流行性發生ニ就キテ

Ueber egidemisches Auftreten der idiopathischen Hemeralopie.

von Dr. Chr. Merz-Weigandt, Augenarzt in Eger.

(Kli. Monat. f. Aug. 15, Dezem. 1923, S. 362.)

Bondi (Iglau) ガ (Kl. M. f. A. S. 431, Bd. 69.) Iglau ニ於テ 1922 年 5 月ヨリ 6 月初旬ニ至ル迄觀察セル結膜乾燥症ヲ併有スル夜盲症ノ小流行ニ就キテ報告シ特ニ時期ガ 5 月中旬ヨリ 6 月初旬ナリシ事。男性ガ女性ヨリ多數ナリシ事 (男 15 女 1) 職業トシテ野外ニ於ケル勞働階級ニ多キ事ヲ注意シ而シテ氏ハ同年ニ於テハ非常ニ乾燥ト强光線ガ作用シ 6 月ニ於テ反對ノ天候トナリシニヨリ强光線ガ本病原因ニ大關係ヲ有スル事ヲ説ケリ。

著者ハ 1920 年乃至 22 年ノ三箇年間殊ニ 1920 年ニ於テ最多數ヲ占メ Egerland ニ於テ遭遇セル本症流行ノ狀況ヲ記セントス。是レニ先チ著者ハ 1910 年來結膜乾燥症ヲ伴ヒ ビト 氏斑點ヲ鞏膜結膜ニ存シ而シテ全ク夜盲ニ關係アル他ノ疾患 (色素性網膜炎, 脈絡膜炎, 角膜翳等) ヲ有セザルモノニ就テ蒐集セルモノハ表ノ如シ。

年 次	數	男	女	初 發 月 日	晚 發 月 日
1910	4	4	—	四月十六日	九月十九日
1911	3	3	—	五月五日	五月二十五日
1912	2	2	—	四月二十八日	五月六日
1913	3	2	1	四月三十日	十一月四日
1914	4	4	—	四月一日	十月一日
1915	—	—	—	—	—
1916	1	1	—	四月十八日	四月十八日
1917	2	2	—	四月二十三日	五月二十五日
1918	5	5	—	三月十五日	五月十九日
1919	1	—	1	五月二十七日	五月二十七日
1920	30	26	4	三月二十一日	八月二日
1921	13	12	1	三月十六日	七月二十八日
1922	16	14	2	三月二十一日	七月一日
計	84	75	9	三月十五日	十一月四日

此職業的關係ハ總計 84 名中 24 名ハ鑛山職工其他ハ種々ナルモ主トシテ農業ナリ。而シテ著者ノ觀察中男性ニ多キ事 (男 75 對女 9) 及ビ發來ノ時期ニ於テハ大抵 Bondi ニ一致スルモ職業的トシテハ其三分一ハ工夫其他製造人職人等ニシテ其一小部分ガ強光ノ許ニ作業スルモノナル事ハ稍一致ヲ缺ク所ナリトス。而シテ結膜乾燥症ヲ伴フ夜盲ヲ特發性夜盲ト稱シ他ノ色素性網膜炎又屢々中等乃至高度ノ近視ニ伴フ輕度ノ夜盲等ト區別ス可キナリ。

夜盲ノ流行性發來ハ凡ユル機會ニ來ルモ特ニ戰時及ビ凡テ住民ノ營養障礙ヲ來ス可キ變災時等ニ多シトス。

歐洲戰亂ニ於テ夜盲ノ流行性發來ノ觀察ハ Braun Schweig ノ 27 例, Fade ノ 12 例, Best ノ 36 例, Paul ノ 16 例ナリ。戰役夜盲ニ就テハ Birch-Hirschfeld ニヨリ綜合的報告セラレタリ然レドモ此ノ凡テノ夜盲ニ於テ乾燥症及ビ營養障礙ヲ有セザリシ。Gonzalez ハ 1920 年 Leon 及ビ Asyl ニ於テ本症ノ時期流行ヲ記載セリ。

夜盲ノ生理學的原因ニ就テハ學者各說ヲ異ニセリ Treitel 及ビ V. Kries 及ビ中村其他ノ學者ハ夜盲ハ網膜桿狀體裝置ノ官能低下ニ歸セリ。猶ホ多數ノ學者殊ニ著者ハ近來小口、熊谷及ビ Gonzalez 等ノ說ケル視紅素ノ再生不全ニ歸セントス。小口氏ハ視紅素ノ補充或ハ新生障礙ニ大ナル意義ヲ置ケリ。此視紅素ハ一種ノ「リポイド」ニシテ分泌機關ノ一種ト見做ス可キ網膜色素上皮細胞ヨリ發來シ而シテ其「リポイド」ハ肝臟ヨリ基ツケラレ而シテ血液ト共ニ眼内ニ入リ色素上皮細胞ニヨリ完成サルモノナリ。肝臟ハ上皮細胞ノ色素ニ一定ノ關係ヲ有スル事ハ熊谷氏ノ試驗ニヨリ信ヲ置ク可キナリ。

夜盲ノ發來ハ視紅素ガ或ハ過度ニ速ニ使用サルニヨルカ或ハ補充ノ遲延スルニヨルモノナリ。

著者ハ本症ニ對シテ左ノ原則ヲ與ヘタリ。

一. 眩迷 眩迷ニ際シテハ視紅素ガ速カニ使用サル可シ。

二. 視紅素補充遲延

- a. 榮養ニ就テ食物或ハ脂肪ノ攝取不充分
- b. 腸加答兒ニヨル同化作用ノ減退
- c. 肝臟疾患
- d. 膽管ノ障礙

e. 血液中ノ「リポイド」ノ破壊ヲ起ス可キ血液病竝ニ中毒症

f. 過勞 此ノ際「リポイド」ガ筋作業ニヨリ使ヒ減ラサル時

三. 網膜及ビ脈絡膜疾患

四. 色素上皮細胞ノ官能障碍

例令バ先天性夜盲ハ恐ラク視紅素ノ形成障碍ニ基クナラン

以上四種ノ原因中第一及ビ第二ノ原因ガ特發性夜盲ヲ發來ス可キモノナリ。

Gonzalez ハ肝臟ハ視紅素ヲ形成スル「ホルモン」ヲ生ズルト考ヘリ。小柳氏ハ死ノ四週前結膜乾燥症ヲ伴フ夜盲ヲ來シ檢眼鏡的變化ナク臨牀上只乾燥症ヲ伴フ夜盲ヲ起シ檢眼鏡的所見變化ナク臨牀上只乾燥症ヲ證明シ得ルノミナル10歳ノ肝臟硬變ニヨリ死亡セル處女ノ網膜色素上皮ノ病理檢索ヲナスノ機會ヲ得其所見ニヨレバ色素上皮細胞ガ圓形大脂肪粒ヲ以テ占居サレ主トシテ上皮細胞ノ外部ヲ領シ之ニ反シテ桿狀體及ビ圓錐體層ニ於テハ全ク脂肪ヲ發見セザリシ故ニ氏ハ之ハ特發性夜盲ニ於テ殆ド常ニ併有スル吾人ガ乾燥症ナル名稱ヲ以テ顯ハス鞏膜結膜ノ原發性變性變化ノ如ク色素上皮ノ非炎性脂肪變性ニ等シキモノト考ヘタリ其故ニ氏ハ氏ニヨリ發見サレタル「リポイド」様物質ノ上皮内ニ發來スル事ハ夜盲ノ發生ト密接ナル關係ヲ有スル事ヲ信ゼリ。

Boll 及ビ Kühne ニヨレバ網膜色素ガ暗所ニ於テ其基底細胞部ノ核ニ最モ近ク存在シ光ノ影響ニヨリ前方ニ出テ遂ニ細胞突起ノ終端ニ集積ス。視紅素ハ光線ニ觸レ其赤色ヲ失ヒ暗所ニ於テ再生ス而シテ病理解剖上著者ハ恐ラクハ上皮細胞ノ分泌物ト見做セリ茲ニ於テ多クノ學者ハ夜盲ニ先ヅ色素上皮ノ變化ヲ來シ以テ視紅素ノ再生ヲ妨ゲラレ發現スルト見做ス而シテ此檢索ヲ再ビ夜盲ハ肝臟ノ官能障碍ニ關聯スル事ヲ想像セシメタリ。

夜盲及ビ乾燥症ノ療法ニ就テ動物ノ肝臟ヲ推賞スル事ハ學者ノ一致スル處ニシテ洋ノ内外ヲ問ハズ古來ヨリ各地ニ知レ互ル處ナリ即チ動物ノ肝臟ハ夜盲ノ民間療法トシテ其價值少ナカラズ只肝臟殊ニ肝油ハ內用トシテ效果アルノミナラズ Gonzalez ハ肝臟ヨリ攝取セシ越幾斯ノ靜脈内注射ヲ行ヒ他ノ凡テノ方法ニテ奏效セザリシモノニ良結果ヲ收メタリト稱ス此ノ作用ヲ説明セント欲スルナラバ次ノ二項ヲ考察ス可キナリ。

(イ) 肝臟ガ內分泌作用ヲ有スル事。而シテ其ノ働キニヨリ視紅素ノ形成ヲ鼓舞スル「ホルモン」ヲ生成ス故ニ夜盲ハ一種ノ肝臟作用不全ト見做ス。

(ロ) 夜盲ハ Stegg 氏ニヨレバー種ノ「ヴァイタミン」缺乏症ト見做セリ。吾人ハ肝油ハ「ヴァイタミン」A (脂肪溶解性「ヴァイタミン」)ヲ多量ニ含ム事ヲ知ル「ヴァイタミン」Aハ肝油ノ如クハ多カラザルモ牛乳,「バタ」及ビ其他動物性脂肪ニモ含有ス而シテ溶脂性「ヴァイタミン」ハ色素上皮ノ脂肪變性發來ヲ防ギ肝臓ハ恐ラク此「ヴァイタミン」族ノ通過及ビ堆積ニ大關係ヲ有スルコトヲ假定シ爲メニ夜盲ハ「ヴァイタミン」缺乏症ト見做シ本症發生カ春季ニ多キ事モ容易ニ説明ス可キナリ即チ「ヴァイタミン」ノ本源ハ天然ニ於テ植物界ニ存在シ特ニ新鮮ナル草,野菜等ニハ多量ノ「ヴァイタミン」Aヲ含有シ之ガ動物脂肪内ニ來ル量ハ其飼料ノ「ビタミン」含量ノ多少ニ關スル事ハ確實ナリ。即チ牛乳,「バタ」等ニ於ケル「ヴァイタミン」含量ハ其乳牛ノ飼料如何ニ直接關聯シ新鮮ナル綠草ヲ自ラ求メツツ食シ得ル彼ノ牧場ノ牝牛ガ厩舎内飼養ノ牝牛ノ牛乳,「バタ」ニ比シ多量ノ「ヴァイタミン」ヲ含ム一般ノ小農民ノ飼養狀態ニ見ル如キ冬季ノ終リニハ通常飼料ノ缺乏ニ遭遇シ青草ハ4,5月ノ頃ニ於テハ充分ノ量ニ達セズ加フルニ家畜ハ冬季内ニ於テハ餘リ勞働セズシテ厩舎ニアリ殆ド休養ノ狀態ニアルモ春季ニ至リテハ多忙ナル耕作ニ使用サル斯クテ此時期ニ得タル牛乳,「バタ」,屠肉ノ脂肪ハ夏,秋季ノ而モ多量ノ綠色飼料ノ存在スル時ノ物ヨリモ少量ナルハ想像ニ難カラズ一方牛乳,「バタ」ノ產生量ノ減少ヲ來ス結果多クノモノハ「バタ」ノ代リニ其代償物トシテ豚脂及ビ Margarine (人工牛酪)等ヲ使用ス吾人ハ猶ホ「ヴァイタミン」Aカ酸素現在ノ許ニ熱セラルルニ際シテ容易ニ破壊サル事ヲ知ル其結果例令ハ130度ニテ1時間餘空氣ニ觸レツツ熱セル豚脂又ハ植物脂肪ヨリ作ラレタル Margarine 等ハ「ヴァイタミン」ヲ缺乏セリ。

6,7月ニ於テ再ビ綠色飼料ガ顯ハレ家畜ノ耕作ニ使用セラル可キ時期ヲ經過シ去ルニ再ビ動物體內ニ「ヴァイタミン」攝取ノ増加ヲ來シ牛乳及ビ「バタ」ノ製作ヲ加シ代償物ノ使用ガ減少シ而シテ此時期夜盲ノ流行ノ消滅スル事ヲ見ルヲ得。男子ニ於ケル夜盲ノ女子ニ比シ多數ヲ占ムルハ男子ハ活動ニヨリ食素ノ攝取女子ニ比シ多シ故ニ「ヴァイタミン」ノ多量ヲ使用スル事ニ歸スル事ヲ説明スル事ヲ得「ヴァイタミン」ガ只榮養ニ關係スルノミナラズ却テ内分泌作用ニ關聯ヲ有スルト假定スルナラバ恐ラク又男子精液細胞ノ生製ニモ多大ナル「ヴァイタミン」ヲ要ス可シ。

榮養障礙其モノガ單ニ此疾患ヲ原因スルモノナラザル事ハ蓋シ生活上危難ノ

多大ナリシ 1917 年, 1918 年ニ於テ本症ノ發生ガ例年ニ比シ其數ヲ増サズ 1920, 1921 年及ビ 1922 年ニ於テ増加セルニヨリ考察スル事ヲ得即チ余ハ 1917, 8 年ニ於テハ住民ハ多ク「ウイタミン」ヲ含ム生野菜及ビ馬鈴薯ノ食用ヲ取リシ結果飢餓狀態ノ爲メ多數ノ飢餓浮腫ヲ發生セシニモ係ラズ夜盲ハ缺乏セリ。1920 年ニ於テ漸次肉食ノ増加ニ傾キ野菜ノ攝取ニ顧慮ス爲メニ各階級ニ「ウイタミン」ノ缺乏ヲ來シ其結果夜盲ノ發來ヲ見ルニ至レルナリト。

此ノ論文ノ記載中林氏論文ニシテ同氏ハ家兎ニ全ク「ウイタミン」A ヲ含マザル食物ノミヲ與ヘ乾燥症ヲ起サシメシ論文ノ拔萃ヲ得益々余ノ觀察ノ自信ヲ高ムルヲ得タリ。(片山抄)